

イランの障害者を支援するミントの会リハビリプロジェクト活動報告

(イラン滞在期間 2017年10月28日～11月3日)

ミントの会 作業療法士
秋山佳世子

1. ユニバーサルスポーツの紹介とボッチャ大会

実施日：10月29日

会場：アルボルズ州マラッド 体育館

主催：NGOナセリ・障害福祉省ベヘジシティ・ミントの会

参加者：地域の障害者団体・施設から聴覚障害者8名・知的障害者12名・身体障害者13名（車椅子10名・杖歩行器3名）家族30名・市役所等10名・ミントの会7名 合計約80名

内容

①最初に市の関係者から挨拶・NGOナセリ・ミントの会代表の挨拶の後、ろう学校の生徒さん達による手話コーラスが披露された。

②ユニバーサルスポーツの意義と様々なスポーツについて説明・紹介

作業療法士の大塚進先生より、ユニバーサルスポーツの意義とスポーツについて説明。

ボッチャは、重度の脳性麻痺の方々がスポーツを楽しめるように創られた競技であること。

そして今回の目的は「老若男女・軽度から重度までの障害がある人・ない人全ての人々が楽しめるボッチャを通じて、交流を育み継続的な繋がりが生まれること」であることを説明。そしてこの考え方の大切さを理解して頂けることを目指して、実際にボッチャを体験して頂くことをお伝えした。



③ボッチャの体験

実際に全員にボールに触れてもらいルールの説明を行った。

④ボッチャ大会

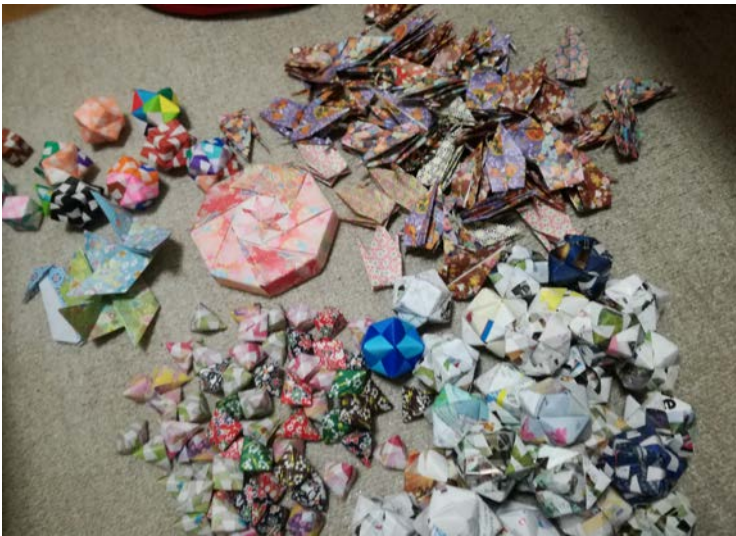
頸損の方で自力ではボールを投げられない方もおり、息子さんの介助で参加されたが「補装具を使ってでも自分でやりたい」と話され、積極的であった。知的障害者の方々もルールを理解され、力を加減してボールを投げてコントロール。徐々に上手く狙い通りに投げることができ、みなさんから歓声を浴びて嬉しそうに喜んでいた場面が印象的でした。脳性麻痺や脊髄損傷者のみなさんは積極的に参加し、盛り上がりを見せました。



⑤生活状況・福祉用具の利用状況を確認するため、アンケートを実施した。

⑥最後に日本からのお土産として菓子・折り紙の作品を手渡し終了となった。

折り紙は日本で働くOT・PT・Nsと担当患者さん・ご家族のみなさんに協力して頂き、作っていただきました。これを通してイランに関心を持ってもらうこともでき、相互作用が生まれたと思います。



感想： 地域の行政担当者にも参加・共に体験してもらい、障害者の集まりの場に来て、見てもらえたこと。そして、集まったみなさんに、その場は皆が対等であり仲間であるということを体験してもらえたと思います。

現地の障害者・家族・NGOの皆さんは、とても熱心に楽しく参加されていました。組織やマネージメントもかなりしっかりできているので、今後が楽しみです。そしてボッチャ以外の色々なユニバーサルスポーツの種目の実施も可能であると感じました。また、活動の場や関わる人達の幅も大きくしていくことができると感じました。